宝小学校だより
ななさと

宝小学校学校だより
ＮＯ１９
平成２７年１２月１６日(水)
文責　小俣　一夫

見える学力と見えない学力

学力には「見える学力」と「見えない学力」があると言われています。岸本裕史著「見える学力見えない学力」によると、氷山は大部分が海面下に沈んでいて、８分の１だけが海面上に姿を見せています。子どもの学力も同じで、テストやあゆみで示される成績は、いわば見える学力です。その見える学力の土台には、見えない学力というものがあるのです。見える学力を伸ばすには、それを支えている見えない学力を太らせなければなりません。貧弱な土壌では果実もちっぽけなものしか実りません。

現在、学校では「生きる力」の育成に向け、自ら課題を見つけ、進んで解決方法を探し、友だちと話し合い、協力して問題解決にあたるという、子どもたちが主体的に学習に取り組む学習方法を取り入れ、一人一人の思考力、判断力、表現力を育んでいこうという「言語活動」を中核に据えた取り組みを進めています。

見えない学力の核心は言語能力です。言語能力は学力の母体です。子どもの言語能力の発達は、幼児期の飛躍的な伸びに比べて、小学校の入学頃からは、外見上は、そんなに目立った変化はありません。ところが言語能力は一日も休むことなく、とどまることなく発達しています。そんな、小学生になった子どもたちの見えない学力は、言語能力としての読書を通じてめざましく伸びていくと言われています。

本には、親や教師から深く聞けなかったことがらや、日常教えてもらえない知識がたくさんのせてあります。親の考えとは、その発想も論理もまったく異質の知見も書かれています。教師の語ってくれない、さまざまな歴史や世界のあることも知ることができます。自然の秘密や、すぐれた人物の生い立ちもわかります。そして、より知的な探究に向けて意欲をかりたてられます。読むほどにいろんな文章に接し、新しい言葉もどんどん覚えていきます。

また、本好きな子どもは、頭の中にイメージをえがく能力が、ぐんぐんついていきます。日々学校で与えられる系統的な教科学習によって、子どもたちの学力はしだいについていくのですが、その場合、イメージ構成能力がとぼしければ、学力はあまり伸びていきません。文字を意味のあるように配列したものが文章ですが、その文章の中味を、具体的に場面なり情景としてイメージして再構成できる能力、すなわち想像力が貧しければ、思考することができません。文章をリアルにイメージ化できるかどうかは、学力の獲得と定着度を左右する分岐点です。読書好きの子どもは、いろいろな場面をイメージ化することができ、イメージ化できる楽しさを知ると、さらに読書を好きになっていくという相乗効果が働いていくのだと思います。

本校児童の見える学力は？
全国学力学習状況調査の結果について

文部科学省は、今年度の「全国学力学習状況調査」結果を９月に公表いたしました。それを受けて、都留市では、各学校の担当者を中心に「学力向上検討委員会」を立ち上げ、結果及び課題の分析、今後の対応等について研究を行ってきました。その結果がまとまりましたので、本校の分析結果と合わせて、学力向上に向けた取り組みについてお知らせします。なお、６年生には個別懇談会の折に、担任より保護者に個別の結果を配布しました。各家庭におきましてお子様の学力と学習状況について話し合い、今後の取り組みの参考にしていただきたいと思います。

全国学力学習状況調査とは、２００７年より日本全国の小中学校の最高学年（小学校は６年・中学校は３年）を対象に行われている調査です。一般的には「全国学力テスト」と呼ばれており、その目的を文部科学省は次のように説明しています。

目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
○そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
○学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等を図る。

つまり、国は行った教育が十分な効果を上げることができたか、上げられなかったとしたら、何が問題で、どのように改善していけばいいのか・・・等を考えなければなりません。そこで、絶えず成果を検証し、次に生かす手立てを考え実践していく材料として、この調査があります。

正答率の高い傾向が見られる子どもは？

・読書が好きな子ども
・宿題をする子ども
・朝食を毎日食べる子ども
・家庭で学校の出来事を話している子ども

全国学力・学習集状況調査　本校の６年生の結果の分析について

宝小６年児童の国語Ａ（知識）は，全国・県平均正答率を数ポイント上回り，国語 B（活用）は，全国・県平均を下回りました。算数Ａ（知識）は，県・全国を下回りましたが，算数Ｂ（活用）は県平均を上回っています。理科は，多くの児童が基礎的な知識・技能を理解しており，全国・県を上回りました。生活面では，児童と地域のつながりが深く，家庭教育がしっかりとなされていることがうかがえます。

今回の結果を今後の指導法の改善に生かすとともに，家庭・地域のみなさんと連携して，子どもたちの学力の定着と向上をめざして取り組みます。ご理解とご支援をお願いします。

～調査結果～

【国語の結果】

	良好なもの	課題があるもの
知識 活用	○漢字の読み書きができる。 ○文章中における主語を捉える。 ○具体的な事例を挙げて説明する文章を書く。 ○目的や意図に応じ新聞の割り付けをする。	■文を構成する主語と述語との照応関係を捉える。 ■新聞のコラムを読んで，表現の工夫を捉える。 ■目的や意図に応じ，取材した内容を整理して記事を書く。 ■文章と図を関係付けて，自分の考えを書く。 ■登場人物の行動を基にして，場面の移り変わりを捉える。 ■登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する。

※漢字の読み書き等，基礎的な学習は定着していますが，習得した知識を活用して文章表現をすることや，読み取った登場人物の行動や気持を根拠にして，考えたり表現したりすることに課題があります。

【算数の結果】

	良好なもの	課題があるもの
知識	○ 180°や 360°を基に分度器を用いて，180°よりも大きい角の大きさを求めることができる。 ○円の性質から三角形の等辺を捉え，二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる。 ○グラフに表されている事柄を読み取ることができる。 ○式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる。	■小数の減法について，計算の結果のおよその大きさを捉えること。 ■加法における計算の確かめの方法を見つけること。 ■末尾の位のそろっていない小数の減法計算をすること。 ■異分母の分数の減法計算をすること。 ■日常生活の中で必要となる時刻を求めること。 ■示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を選択すること。 ■見取図と展開図を関連付けて，立体図形の辺や面の位置関係を捉えること。
活用	○平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している。 ○示された二組の道のりが等しくなる根拠として，図形を見いだし，その図形の性質を記述できる。	■示された情報から基準量を求める場面を捉え，比較量と割合から基準量を求めること。 （２０％増量した商品の内容量が４８０ｍＬであるとき，増量前の内容量を求める式と答えを書く。） ■条件を変更した場面に面積を２等分する考えを適用して，示された部分の面積を求めること。

※基礎的・基本的な知識の中でも特に「図形」や「量と測定」領域の学習内容が定着しています。一方で，小数や分数の引き算方法の　理解があいまいな児童が多く，計算の技能をしっかりと定着させる必要があります。

【理科の結果】

	良好なもの	課題があるもの
	○メダカの雌雄を見分ける方法を理解している。 ○顕微鏡の名称を理解し，顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている。 ○水の温まり方を考察するために，実験結果を基に自分の考えを改善できる。 ○メスシリンダーの名称を理解している。	■熱膨張が小さい金属について，グラフを基に考察して分析した内容を記述する。 ■電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用すること。 ■生物の成長に必要な養分のとり方について，調べた結果について視点をもって考察して分析する。 ■水蒸気は水が気体になったものであることを理解している。 ■月は１日のうち時刻によって形は変わらないが，位置が変わることを理解している。

※「自然事象についての知識理解」及び「実験・観察の技能」は全国・県平均を大きく上回っていますが，実験観察の結果から，考察したり分析したり知識を適用して考えたりすること（科学的な思考・表現）に課題があります。

【生活の結果】

	良好なもの	全国・県と比べて課題があるもの
知識	○家で，学校の授業の予習をしている。 ○地域の行事に参加している児童がとても多い。 ○ノートに学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている児童が多い。 ○読書は好きという児童や図書室へ行くという児童が全国・県と比べてとても多い。	■難しいことでも，失敗を恐れないで挑戦している児童が少ない。 ■自分には，よいところがあると思う児童が少ない。 ■友達の前で自分の考えや意見を発表することが苦手な児童が多い。 ■将来の夢や目標を持っていない児童が多い。 ■自分で計画を立てて家庭での勉強をしていない児童が多い。 ■人の役に立つ人間になりたいと思う児童が少ない。

※規則正しい生活ができ，地域の行事に参加する等，家庭教育がしっかりなされていることがうかがえます。また，本校の特色の一つである読書活動の充実が，読書を好きな児童の育成につながっていることも明らかになりました。一方で，自分の考えを伝えたり，目標を持ってチャレンジしていく意識を持ったりすることや自己肯定感を高めることが課題です。

文責　上野敦司